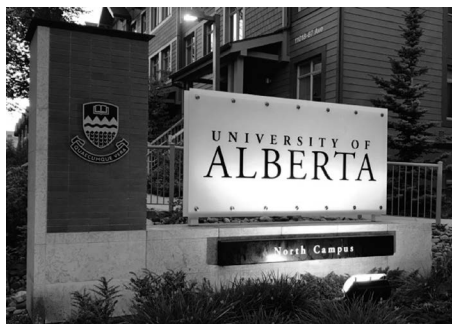


60周年記念事業「研究者海外研修支援事業」体験記

江藤 宏 (九州大学)

私は、カナダのアルバータ州エドモントンにあるアルバータ大学にて、コンピュータサイエンス、アルゴリズムの研究を行っている Guohui Lin 教授のもとで、2017年8月4日から9月5日までの約1カ月間滞在いたしました。研究環境としては学内にて部屋を一つ与えていただき、また、図書館などの大学施設や学内の Wi-Fi などを利用ができる訪問者用のアカウントを発行していただきました。そのアカウントでは大学内だけでなく、地下鉄構内など学外の施設においても同様の Wi-Fi に接続できることができると感じました。また、学内には24時間開館している図書館があり、時差ボケから滞在当初は夜中にその図書館にて研究を行うことも多々ありました。



滞在先には、私以外にも Guohui Lin 教授のもとに上海大学など中国から複数の先生が滞在されており、Guohui Lin 教授とその研究室の学生、滞在している先生方とお互いの研究紹介を兼ねたワークショップに参加させていただきました。そのワークショップの中で、私が現在取り組んでいる研究テーマについて発表を行い、多くの意見を得ることができました。また、ほかの先生や学生の研究紹介を聞くことができ、海外での研究動向、特にカナダや中国において盛んに研究されているテーマ等を聞くことができるなど、これまで参加してきた国際会議とはまた違った経験をさせていただくことができました。そのワークショップ後には食事会があり、また別日にはホームパーティーにも参加させていただき、研究者の方やそのご家族とも交流を深めることができました。

このワークショップ以降、特に、Guohui Lin 教授とその学生とよくディスカッションを行い、私とその学生の研究テーマが近いこともあり、新たな研究成果を得ることができました。また、今回は長期間滞在することができたため、研究について頻繁にディスカッションを行っていくことができ、新たな研究テーマを見つけることもできました。滞在終了後の現在も連絡を取り合い、共同研究を進めています。

私は、これまでに海外には大学訪問などで1週間程度滞在することは数回ありましたが、今回のように長期間での滞在の経験はありませんでした。この1カ月滞在することで、海外の大学施設を十分に利用ができ、有意義な研究活動を行うことができました。また、今回の長期滞在により海外の研究者と密にディスカッションする機会が得られ、日本ではなかなか経験のできない研究活動が行えました。また、研究だけでなく海外での生活を体験でき、言語の問題や日本での環境との違いで苦労することはありましたが、今後の海外で生活するうえでよい経験となりました。

今回の研修経験を通して、海外の研究者との交流をもつことができ、今後の研究活動の幅を広げるよい機会となりました。今回の滞在に際してお世話になりましたすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

OR学会会員の皆様へ

本事業は2017年より開始しました(毎年最大2名派遣)。本年度のみ「60周年記念事業」として派遣いたしますが2018年度からは通常事業として派遣をいたします。すでにHP・OR誌機関誌には募集要項を掲載しております。(国際理事 武田朗子)